

天理日仏文化協会こども日本語講座の取り組み②

2) 子供への日本語教育の実情と課題

国語科 (幼稚園科も含む) と日本語科

パリ天理語学センター (以下、本校) の子供を対象とした「こども日本語講座」には、国語科と日本語科がある。

国語科は、両親が日本人か、両親のどちらかが日本人で、日本語を母国語とする子供たちのためのものである。教科書は、日本の小学校で使用している光村図書の国語の教科書 (海外在住の日本国籍を有する子供たちに、国から年齢に合わせた学年のものが、毎年支給される) を使い、現地校が休日の水曜日か土曜日に、年間 34 回行われる授業に合わせて編成した、独自のカリキュラムに沿って学んでいる。したがって、ここでは、「フランスで育つ日本人の子供たちへの日本語教育」と題したように、子供クラスの中でも、特に国語科での取り組みを報告していくことになる。

一方、日本語科は、両親がフランス人、または、その他の外国人で、日本語を外国語として学ぶ、中学生から高校生までの子供たちを対象としたものである。子供クラス開設時は、水曜日に、カナダの子供向け日本語教材をフランス語に翻訳したものをを使って、幼稚園クラスや小学生クラスも設けていたが、しだいに生徒数が減り閉鎖したと聞いている。近年のフランスは、毎年盛況の「ジャパンエキスポ」に代表されるように、若者たちの間では、アニメや漫画の人気が高く、日本語への興味を持つ入学希望者が増えている。そうした旺盛な好奇心も手伝って、文法事項を論理的に理解できるようになるこの時期は、日本語を身につける絶好の機会ともいえる。

子供クラスの実際の姿から、課題を捉える

さて、2006 年の 6 月に渡仏する前から、子供クラスの国語科に関しては、「日本語とフランス語のバイリンガルの子供たちのための日本語教材や、指導に関する情報や資料が、英語のそれとは比べものにならないくらい少なく、教材作りや指導に苦労をしている。フランスに来たら、是非相談に乗ってもらいたい」と、会長であった夫を通して、現地のスタッフからの要望を聞いていた。しかし、これまで、日本の小学生や、帰国子女への教育は経験してきたが、外国で育つバイリンガルの子供たちへの指導に関しては、未知の分野であった。現地の期待に応えるためにも、とにかく、早く子供クラスの実際の姿を見て、大まかな概要を知りたいと思っていた。

ちょうど 6 月は、学年度末だったことから、各クラスの担任に、この 1 年間を振り返り、指導で苦労したことや、子供たちの抱えている問題などを聞かせてもらうことにした。さらに、子供たちの日本語能力のレベルや、教師が、どのような点で指導に苦労しているかを知るためにも、授業見学をさせてもらうことになった。

国語科の教科書や教材作成に関する問題点

まず、前述の通り、子供クラス (国語科) では、日本の国語の教科書を使っているのだが、フランスのものに比べて紙質もよく、挿

絵のカラー印刷も可愛らしく、鮮明にできており、手に取るだけでも子供たちは、日本語への興味をそそられる。そして、新出漢字や語句、文法事項なども、学年ごとの発達段階をふまえて、分かりやすく説明されている。

ただ、授業見学に入って分かったことだが、数年ごとの教科書の改訂は、日本の子供たちなら、かえって新鮮であり、何の問題もないが、本校のような外国で暮らす子供にとっては、最大の難点なのである。実際に新旧の教科書を比べると、光村図書のものは、同じような物語が入っており、あまり内容が変わらないのだが、單元ごとのページ数や、挿絵が違っている。

両親のどちらかが日本人であっても、日本国籍がないために、教科書を申請できない子や、たとえ年齢に合わせた教科書を配布されても、本校のカリキュラムでは、下の学年の教科書で学習しなければならない場合は、以前に、天理小学校から寄付された教科書や、年上の子のお下がりを使うしか方法はなかったのである。ページ数や挿絵が違うだけでも、子供たちにとっては興味が半減するばかりでなく、教師にとっても、子供たちの持っている教科書によって、違うページ数を確認しながらの授業は、子供たちの集中力が途切れ、円滑に説明も進められないなどの不都合が出てきていた。できれば、費用はかかるが、新しい教科書が手に入らない子供たちには、日本から取り寄せ、クラスの全員が同じ教科書で学習しなければならないことを、保護者に説明し理解してもらいたいと思った。

次に、漢字や読解力を養うためのプリントや、宿題の作成が、各クラスの実態に合わせて、担任の裁量に任されていたのだが、これは、教師の負担が増えるばかりでなく、学校にとっても今後問題になると思われた。教師は、毎回、授業の前後には、コピー機の順番待ちに時間を取られるばかりでなく、学校の責任としても、市販のワークブックを無断でコピーすることは、著作権の問題を追及されかねないし、コピーの経費もかなり大きくなってきていたからである。

これも、教科書の問題と同様に、保護者には、経費の負担をあまりかけず、内容が理解しやすい問題集を定めて、全校的に取り組むことで、さらに学習効果が得られ、担任の負担も軽減されていくと考えられた。

生まれ	年齢	学年 フランス	日本	クラス	教科書
1995年	17歳	Terminale	高3	BAC対策	
1996年	16歳	1er	高2	国語科 10組	6年上~6年下
1997年	15歳	2nd	高1	国語科 10組	6年上~6年下
1998年	14歳	3e	中3	国語科 9組	5年下~6年上
1999年	13歳	4e	中2	国語科 8組	5年上~5年下
2000年	12歳	5e	中1	国語科 7組	4年下
2001年	11歳	6e	小6	国語科 6組	4年上
2002年	10歳	CM2	小5	国語科 5組	3年下
2003年	9歳	CM1	小4	国語科 4組	3年上
2004年	8歳	CE2	小3	国語科 3組	2年下
2005年	7歳	CE1	小2	国語科 2組	1年下~2年上
2006年	6歳	CP	小1	国語科 1組	1年上~下
2007年	5歳	年長	幼稚園科 年長	幼稚園科 年長	ひらがな
2008年	4歳	年中	幼稚園科 年中	幼稚園科 年中	ひらがな